

〔運歩色葉集見〕美濃

〔日本風土記寄語島名〕美濃米奴

〔南留別志五〕飛驒國美濃國は道の左りみぎりといふやうなり、

〔美濃明細記〕美濃國

當國有三野所謂青野、大野後爲郡名各務野也故往古稱三野國造本記後用好字稱美濃國號濃州、

〔古事記上〕此時阿遲志貴高日子根神自阿下四到而弔天若日子之喪時自天降到天若日子之父亦

其妻皆哭云我子者不死有祁理此二字以音下效此我君者不死坐祁理云取懸手足而哭悲也略於是阿遲

志貴高日子根神大怒曰我者愛友故弔來耳何吾比穢死人云而拔所御佩之十搦劔切伏其喪屋以

足蹶離遣此者在美濃國藍見河之河上喪山之者也

〔常陸風土記久慈郡〕郡東七里太田郷長幡部之社古老曰珠賣美萬命自天降時爲織御服從而降之

神名綺田女命本自筑紫國日向二神之峯至三野國引津根之丘後及美麻貴天皇崇之世長幡部

遠祖多氏命避自三野遷于久慈

〔新撰美濃志美濃全體說〕州號は異國のさまをまねびてよからぬならひなれどむかしより詩文

には用ふる人多く本朝文粹本朝麗藻田氏文集元亨釋書砂石集日本紀竟宴和歌の橘朝臣直幹

が歌の前書等に美州とかきて頭文字を用ひしは正しく同じ田氏文集本朝無題詩等に濃州と

かきしよりいまに至るまで通用となりしはかへりてたゞしからず伊賀伊勢頭文字同じけれ

ば伊州勢州と上下の文字を用ひわけしはむべなり美作に作州と下の文字を用ひたれば當國

にはさしつかへなく頭字を用べき事也

〔倭訓栞前編三十〕みの、國は古事記に三野と書る本義なるべし國に大野三所ありとい

ふ舊事紀に見ゆ本巢郡に美濃郷あり